

「アジア低炭素化センター5周年及びMICお披露目」におけるご挨拶
2015. 7. 27 MIC 大上二三雄

只今ご紹介に預かりました、大上です。アジア低炭素化センターが5周年を迎える晴れの日、北九州市との包括提携、及び本社移転を発表する機会を皆様の前でいただけたことを、大変に嬉しく思っています。

みなさまは、早く小宮山先生の話を知りたいことと思いますが、その前に、教え子である私の話も少し聞いてください。

アジア低炭素化センター設立の際、センター長に小宮山先生が就任され、教え子である私が参与を拝命しました。その時頂いた指示はただ一つ、「どんどん行け」でした。

議論を重ね、海外における環境分野のビジネス展開には二つのキーワード、方法論と官民連携が必須であるとの結論を得ました。

方法論は、プロジェクトのために必要な経験や知識をデータベース化してリンクした、いわば作戦要務令のようなものです。小宮山先生の「知識の構造化」そのものです。日本の企業や役所に欠けているケースが多く、特に上流工程において海外勢に劣後する一因となっています。

方法論に関しては、北九州モデルとして2013年にバージョン1の構築が完了しました。その後多くのプロジェクトにおいて大いに貢献しつつ、改良を重ねています。

さて、官民連携については、市と関係企業が出資をするX社の設立を構想しました。

第1段階は助走、北九州モデルに関する部分を中心に、市の立場からより突っ込んだ事業の開発コンサルティングを実施することで、資金を得つつ人材育成を進める。

第2段階は展開、開発コンサルティングに加えプロジェクトの包括的なマネジメントやファイナンスに関するサポートを行う、すなわち経営+開発コンサルティングを行う。

第3段階は運営、北九州市の廃棄物処理や上下水道などの公益事業を基盤に、アジアで環境インフラの運営事業を行う会社になる。

これがX社構想です。

X社のスタートについて、色々と議論を重ねました。

昨年の春より今日まで、議論より実践ということで私の会社の軒先で第1段階の実験を行ったところ、想定以上の成果を得ることが出来ました。

そこでM I Cの本社を北九州市に移転して、そのまま第2段階のX社とすることで関係者が一致した結果、本日、この場でご挨拶をさせていただいている次第なのです。

さて、ここから少し、私の志について話すことを、お許してください。

私は、1976年に小倉高校を卒業し東京に出ました。1981年に、当時はパン屋と間違えられるような小さなコンサルティング・ファームであったアンダーセン・コンサルティング、現在はアクセンチュアとなり時価総額640億ドル=約8兆円の会社に職を得、2003年まで勤めました。

アメリカ流キャピタリズムの権化のような会社で大いに稼いだ結果、それなりの地位に上がり、株式上場を経て小金を得ました。

「植民地ビジネス」ではなく日本のため、そして北九州の為になるビジネスをやりたい、との思いが募り抑えきれなくて、2003年にアクセンチュアを辞めました。その時設定したゴールは、次の通りです。

1. 230億円の資金を作る。
2. 北九州市に小宮山先生が考えるベストな環境ビジネスを営む会社を設立し、その金を全て注ぎ込む。
3. その事業を成功させ、後代に残る公的な企業とする

私の名前にちなんだ230億円を稼ぐという目標は、良い線行っていますが未だ途上ですが、結果的に2番目が先に、本日実現致しました。

ここでわが社に話を戻します。

私は本当の意味で北九州を世界の環境首都、環境経済の中心地にしたい。その為にわが社は、今後努力と研鑽を重ね、高付加価値な知識産業としての環境ビジネスを実現し、本気で地方創成を担って行きたいと思えます。

我々の官民連携は、単に北九州市とその周辺に留まりません。和泉補佐官にもいらしていただいたように我が国政府、そして相手国の政府や自治体そして企業ともがっちり手を組み連携する、その中で公益ビジネスとしての環境ビジネスを、展開して行きたいと思えます。

近い将来には北九州市とここにいらっしゃる地元企業の方々が当社の主要株主になる、M I Cをあらゆる意味で北九州市の企業にする事が、私の究極の目標です。

改めて、北橋市長や小宮山センター長、アジア低炭素化センターの皆様を始め、多くの関係者の方々のこれまでの支援に感謝いたします。当社は今後とも全力を尽くしてまいりますので、ご来席の皆様には、ご支援を頂けるようお願い致します。ご清聴ありがとうございました。